

わが街 Watching



▲みんなで一緒に手を伸ばしてレクリエーションダンス

力作の数々、これからも

シルバー趣味の教室作品展・芸能大会

3月10日・11日、田川青少年文化ホールで「シルバー趣味の教室」の作品展と芸能大会が催され、172人の受講生が1年間の成果を披露しました。

昭和55年から続くこの教室は、高齢者が趣味を通して技能を楽しみながら習得し、社会に積極的に参加してもらうことを目的に実施しています。今回は、きめこみ人形、俳句、陶芸、パッチワーク、書道の5教室が315点の作品を両日で展示。力作の数々に、多くの来場者が見入っていました。11日には、民謡、レクリエーションダンス、民謡、英会話、詩吟の5教室が、この日のために仕上げてきた歌や踊りなどを披露し、会場から大きな拍手を浴びていました。

個性あふれる作品がズラリ

第26回田川の子どもたちによる絵画展

2月10日～3月11日、田川市美術館で「第26回田川の子どもたちによる絵画展」が行われました。

この絵画展は、美術館に親しみ、芸術を身近に感じてもらうと、平成5年から開催しています。今回は、田川市郡の小中高校生から水彩、版画など5,829点の応募があり、小学校（低・中・高学年）と中学校、高校の5部門で選ばれた入賞55点を含む入選作品822点が展示されました。

中学校の部で金賞を受賞した佐藤七海さん（伊田中学校3年）は「風の又三郎」の本を読んだ感想と頭に浮かんだインスピレーションを絵で表現。その絶妙な構成が審査員に評価されました。



▲自信作とともに、賞状を手にする佐藤さん

仲間たちと培った思い出を胸に

福岡県立大学卒業証書・学位記授与式

3月16日、福岡県立大学講堂で「卒業証書・学位記授与式」が行われ、はかまやスーツに身を包んだ人間社会学部と看護学部の学生258人、大学院生23人の計281人が、それぞれの未来に向かって羽ばたきました。

式では、同大学の柴田洋三郎学長が「本学で培った社会人基礎能力、対人支援力、対人折衝力は、終生みなさんの基盤となります。たくましく活躍してほしい」と激励。学部卒業生を代表して、看護学部の重田明望さんが「つらいことも楽しいことも仲間と一緒に乗り越え、福岡県立大学で過ごした4年間は私たちの誇りです。大学で学んだことをいかして、これからも精進していきます」と謝辞を述べました。



▲真剣な眼差しで卒業証書を受け取る卒業生

僕たち、私たちは、守ります、火の用心!

春の火災予防運動「防火演奏」

3月6日、サンリブ田川店(川宮)で春季火災予防運動にあわせ、田川地区消防本部主催の防火演奏が行われました。

この日は、伊田保育園の園児15人が、太鼓演奏のほか、火事を知らせる呼びかけや口を押さえて煙から自分を守るポーズを取り入れた防火体操を披露。最後に「火遊びはしません。お父さん、お母さん、先生の教えを守ります。礼儀正しく素直な子どもになります。僕たち、私たちは、守ります、火の用心」という「防火のちかい」を宣言しました。

会場の外では、火災現場で活躍する消防車両2台を展示。出番を終えた園児たちが一斉に駆け寄り、その雄姿に目を輝かせ、保護者などと一緒に記念撮影を楽しみました。



▲息をぴったり合わせて演奏する園児たち

歴史の流れを肌で感じて

後藤寺小学校児童が遺跡の発掘現場を見学

3月12日、後藤寺小学校の5年生41人が、上本町遺跡発掘調査の現場(西田川高等学校敷地内)を見学しました。

この調査は、平成26年から始まったもので、弥生時代を中心に住居跡や土器など貴重な文化財が数多く出土しています。地元の歴史の見聞を深めようと、同校と大浦小学校の児童、後藤寺中学校や西田川高等学校の生徒、上本町の住民など約380人が見学に来訪。市石炭・歴史博物館の学芸員から当時の生活や発掘作業の様子などを聞きました。

日本史の授業のスタートを控えた森元壮琉さん(後藤寺小学校5年)は「昔の人の暮らしがよくわかって、歴史に興味を持つことができました」とにっこり。



▲初めて見る発掘調査の様子に目を輝かせる子どもたち



ドイツからやってきた国際交流員(CIR)のアネマリー・グンツェルさんが、ドイツの文化や田川での生活などを紹介します。

●アネマリーさんのブログ公開中!
<https://tagawaqir.wordpress.com>

スマホ、携帯電話は
こちらから
QRコード➡



お花見の季節が訪れました。みなさん、花を眺めて春を満喫していますか。今回はドイツの首都、ベルリンで毎年開催される「観桜会」を紹介します。ベルリン・マルツァーン区には「世界庭園」と呼ばれる公園があります。平成12年の中国庭園のオープンを機に同庭園が知られるようになり、平成15年には日本庭園が開園。現在は、韓国、モロッコ、パリなどさまざまな国の伝統的な庭園を堪能できます。「観桜会」は

ドイツでお花見

12年前から毎年日本庭園で開かれている催しで、昨年は約2万5千人の観客が訪れました。お花見の他に、伝統的な音楽演奏や書道のワークショップのほか、東アジアの格闘技の試合など、多彩な演芸が披露されます。日本の食べ物や飲み物が販売されており、ドイツで手に入りにくい「おにぎり」を買うことができます。また、日本のアニメや漫画のファンが集まってコスプレを楽しむ若者が見られることも特徴です。本年の観桜会の開催は、4月15日。ドイツでも日本でも、桜を愛する人の心は同じです。

今日の言葉
Garten (庭園)

